

**あわれみ深い神**

# 第1の災い：水が血に変わる

出エジプト 7:17 「主はこう仰せられます、  
「これによってわたしが主であることを、あ  
なたは知るでしょう。見よ、わたしが手にあ  
るつえでナイル川の水を打つと、それは血  
に変わるであろう」

## 第2の災い：かえる

出エジプト 8:2~4「...見よ、わたしは、かえるをもって、あなたの領土を、ことごとく撃つであろう。8:3 ナイル川にかえるが群がり、のぼって、あなたの家、あなたの寝室にはいり、寝台にのぼり、あなたの家来と民の家にはいり、またあなたのかまどや、こね鉢にはいり、8:4 あなたと、あなたの民と、すべての家来のからだに、はい上がるであろう」...



## 第3の災い：ぶよ

出エジプト 8:16,17 ...『あなたのつえをさし伸べて地のちりを打ち、それをエジプトの全国にわたって、ぶよとならせなさい』と」。8:17 ...すなわちアロンはそのつえをとって手をさし伸べ、地のちりを打ったので、ぶよは人と家畜についた。すなわち、地のちりはみなエジプトの全国にわたって、ぶよとなった。





## 第4の災い：あぶ

出エジプト 8:21 「あなたがわたしの民を去らせないならば、わたしは、あなたとあなたの家来と、あなたの民とあなたの家とに、あぶの群れをつかわすであろう。エジプトびとの家々は、あぶの群れで満ち、彼らの踏む地もまた、そうなるであろう。」



## 区別とするし

出エジプト 8:22,23 「その日わたしは、わたしの民の住むゴセンの地を区別して、そこにあぶの群れを入れないであろう。国の中でわたしが主であることをあなたが知るためである。 8:23 わたしはわたしの民とあなたの民の間に区別をおく。...」。



## 第5の災い：家畜の疫病

出エジプト 9:3 「主の手は最も激しい疫病をもって、野にいるあなたの家畜、すなわち馬、ろば、らくだ、牛、羊の上に臨むであろう。」

## ※区別

出エジプト9:4 「しかし、主はイスラエルの家畜と、エジプトの家畜を区別され、すべてイスラエルの人々に属するものには一頭も死ぬものがないであろう」...

## 第6の災い：はれもの

出エジプト 9:10 「そこで彼らは、かまどのすすを取ってパロの前に立ち、モーセは天にむかってこれをまき散らしたので、人と獣に付いて、うみの出るはれものとなった。」

## 第7の災い：雹

出エジプト 9:18 「ゆえに、あすの今ごろ、わたしは恐ろしく大きな雹を降らせるであろう。それはエジプトの国が始まった日から今まで、かつてなかったほどのものである。」

## ※二種類の人々

出エジプト 9:20 「パロの家来のうち、主の言葉をおそれる者は、そのしもべと家畜を家にのがれさせたが、9:21 主の言葉を意にとめないものは、そのしもべと家畜を野に残しておいた。」

# 大きな雹 → 黙示録16:21

「また一タラントの重さほどの大きな雹が、天から人々の上に降ってきた。」

1タラントの雹 = 約34kg



## 第8の災い：いなご

出エジプト 10:4 「...見よ、あす、わたしはいなごを、あなたの領土にはいらせるであろう。

10:5 それは地のおもてをおおい、人が地を見ることもできないほどになるであろう。そして雹を免れて、残されているものを食い尽し、野にはえているあなたがたの木をみな食い尽すであろう。」

出エジプト 10:6 「またそれはあなたの家とあなたのすべての家来の家、および、すべてのエジプトびとの家に満ちるであろう。このようなことは、あなたの父たちも、また、祖父たちも、彼らが地上にあった日から今日に至るまで、かつて見たことのないものである』と」。...

※家来たちがパロに進言する。

出エジプト 10:7 「パロの家来たちは王に言った、『いつまで、この人はわれわれのわなとなるのでしょうか。この人々を去らせ、彼らの神なる主に仕えさせては、どうでしょうか。エジプトが滅びてしまうことに、まだ気づかれないのですか』。』」



## 第9の災い：暗闇

出エジプト10:22 モーセが天にむかって手をさし伸べたので、濃いくらやみは、エジプト全国に臨み三日に及んだ。

10:23 三日の間、人々は互に見ることもできず、まただれもその所から立つ者もなかった。...

10:21 ...そのくらやみは、さわれるほどである」。

## 第10の災い：ういごを撃つ

出エジプト11:5 「エジプトの国のうちのういごは、位に座するパロのういごをはじめ、ひきうすの後にいる、はしためのういごに至るまで、みな死に、また家畜のういごもみな死ぬであろう。」→

11:6 そしてエジプト全国に大いなる叫び  
が起るであろう。このようなことはかつてな  
く、また、ふたたびないであろう』と。」

これらの災いは

1. 偶像教徒のエジプトの民に、唯一の真の神を知らせ、創造主なる神以外に、天地万物の全てを支配なさる神は他に無いことを知らせるためでありました。



2. イスラエルの民のうちに、子々孫々神の御業を語り継がせるため

3. 「神は、すべての人が救われて、真理を悟るに至ることを望んでおられる。」

(1テモテ 2:4)

エゼキエル 33:11 「あなたは彼らに言え、主なる神は言われる、わたしは生きている。わたしは悪人の死を喜ばない。むしろ悪人が、その道を離れて生きるのを喜ぶ。あなたがたは心を翻せ、心を翻してその悪しき道を離れよ。…」

エゼキエル 18:23 主なる神は言われる、わたしは悪人の死を好むであろうか。むしろ彼がそのおこないを離れて生きることがを好んでいるではないか。

出エジプト 32:10 「それで、わたしをとめるな。わたしの怒りは彼らにむかって燃え、彼らを滅ぼしつくすであろう。しかし、わたしはあなたを大いなる国民とするであろう」

## あけぼの上373

「...もし、神がイスラエルを滅ぼそうとなさるならば、いったいだれが彼らのために嘆願することができようか。たいていの人々は、罪人が滅びるのを、そのまま放任しておくものである。→

人々の忘恩とつぶやきの声しか聞くことのでき  
ない苦勞と重荷と犠牲の生活を捨てて、それに  
代わって安樂と栄譽ある地位とに喜んでつか  
ない人間がいったいあるであろうか。神ご自身が  
モーセを解放すると言っておられたのである。」

## あけぼの上373

「しかし、モーセは失望と怒りしか感じられないところに、希望を見いだした。モーセは、「わたしをとめるな」という神の言葉を、哀願を禁じるのでなくて、それを奨励するものと解した。そして、モーセの祈りだけがイスラエルを救い得るものであって、そのような祈りによって、神は、ご自分の民をお救いになるものと考えた。」



## あけぼの上380

「イスラエルの人々は、反逆罪を犯した。しかもそれは、彼らに豊かな恵みを賜わった天の王に対してであった。彼らは、自分から進んで、その王の権威に従うことを誓っていたのであった。天の統治を維持するためには、反逆者に罰を与えなければならない。→

ここにおいても、なお、神のあわれみがあらわされていたのである。神は、律法を維持されるとともに、選択の自由、すなわち、すべての者が悔い改める機会をお与えになった。反逆しつづける者だけが、殺されたのである。」

## キリストの実物教訓215-216

「主は軽べつや脅かしに会われてもひるんだり去ったりなさないで、「どうして、あなたを捨てることができようか」と言って、たえず失われた者をおたずねになる(ホセア書11:8)。かたくなな心がどんなに主の愛を退けても、主は再び来て、「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている」と、更に強く訴えられるのである。…」

あけぼの下207,208

「あわれみ深い神にとって、刑罰のわざは不思議な行為である。…主は、「あわれみあり、恵みあり、怒ることおそく、いつくしみと、まこととの豊かなる神、…悪と、とがと、罪とをゆるす者」であるが、「罰すべき者をば決してゆるさ」ない(出エジプト34:6,7)。→

神は刑罰を喜ばれないが、神の律法を犯す者には刑罰を与えられる。地の住民が全く腐敗して滅亡することを防ぐために、神はやむをえずこれをなささなければならぬ。神は、いくらかの人々を救うために、罪にかたくなになった人々を滅ぼさなければならぬ。「主は怒ることおそく、力強き者、主は罰すべき者を決してゆるされない者」である(ナホム書1:3)。→

主は、義をもって恐ろしいことを行ない、彼のふみにじられた律法の権威を擁護される。主が刑罰の執行を延ばしておられること自体が、神の刑罰を招いた罪の恐ろしさと、罪人に臨もうとする報復のきびしさを証明している。」

大争鬪下170,171

「...日曜日には神が定められた安息日であると心から信じている真のキリスト者たちが、今も各教会におり、ローマ・カトリック教会も例外ではない。神は彼らの真剣な心と神の前での誠実さを受け入れられる。→

しかし、日曜日遵守が法律によって強いられ、  
真の安息日を守るべきことが世界に明らかにさ  
れるその時に、神の戒めを破って、単にローマ  
の権威によるものにすぎないところの戒めに従  
う者は、それによって、神よりも法王教をあがめ  
るのである。→



...こうして、神がご自分の権威のしるしであると宣言された制度を拒んで、その代わりに、ローマがその至上権のしるしとして選んだものを尊重するときに、人々は、それによって、ローマに対する忠誠のしるし、すなわち「獣の刻印」を受けけるのである。→

こうして、この問題が人々の前に明らかに示されて、神の戒めと人間の戒めのどちらかを選ばねばならなくなったとき、それでも神の戒めを犯し続ける人々が、「獣の刻印」を受けるのである。」

「神は、すべての人が救われて、真理を悟るに至ることを望んでおられる。」

(1テモテ 2:4)